

記 入 日 2014 年 1 月 16 日

1. 概 要

実践団体名	高知県立室戸高等学校		
連絡先	TEL : 0887 - 22 - 1155 E - mail : muroto-h@kochinet.ed.jp		
プランタイトル	ジオ学で防災教育を		
プランの対象者※1	5 高校生 10 地域住民 15 高齢者	対象とする 災害種別※2	7 災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

ジオパークという地震発生のメカニズムを実感できる、自然に恵まれた土地で生徒の成長を図った。

学校や地域が用意したものではなく、生徒が主体的に活動するというのが第一の目的である。自らが動いて活動し、地域住民とのコミュニケーションの中で、既存のハザードマップをより有効に利用できるように、住民一人一人に合わせた避難経路や減災のための計画作りを行い「避難カルテ」作成を目指す。

【プランの概要】

高知県立室戸高校では、室戸ジオパークや地域住民と連携し、選択科目として「ジオパーク学」を開講している。この学習は地域の地質遺産や文化遺産、そして観光や減災への活用を目的としている。また、そのジオパーク学に加え、地域安全協力隊など対外的に活動の範囲を広げる室戸高校生徒会が本プランの活動の軸となる。年度当初、「室戸」という土地理解の為にジオパークについての全校講演、室戸ジオパーク推進協議会主催のサマースクールに参加する。また、炊き出し訓練、避難訓練、ボランティアセンター受付の体験学習、室戸ジオパーク巡回などを行い、年度末に地域住民に聞き取り調査、避難カルテ作成を行う。



【期待される効果・ここがおすすめ！】

人材育成が一番のテーマであると考えている。逃げることを諦めている地域のお年寄りが高校生との交流を通して生きる希望を持ち、減災に対する意識を高めることが期待できる。また、この活動を通して、地域の防災リーダーとして高校生が担う役割が増え、さらに地域に対する思いを強めていくと期待している。




2. プランの年間活動記録 (2013 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	ジオパーク学習	ジオ学 授業学習	ジオパーク学習
5月	24日 講演 (ジオパークについて) 25日 防災学習 (炊き出し訓練)	ジオパーク推進協議会へ依頼 炊き出し訓練用食材買い出し等	24日 講演 (ジオパークについて) 25日 防災学習 (炊き出し訓練)
6月	観光ボランティアガイドら外部の方々による聞き取り調査	ジオパーク推進協議会へ依頼	観光ボランティアガイドら外部の方々による聞き取り調査
7月	夏期学習会準備	ジオ学授業で事前学習 生徒会で参加準備	夏期学習会準備
8月	夏期学習会への参加と反省会	ジオ学授業で事前学習 生徒会で参加準備	夏期学習会への参加と反省会
9月	南海地震フォーラムへの参加	生徒会で参加準備 PPT やパネルディスカッションを想定した準備	南海地震フォーラムへの参加
10月	22日 防災学習 (避難訓練、講演)	生徒会・教員で事前学習	22日 防災学習 (避難訓練、講演、 防災ボランティアセンター受付の体験学習)
11月	避難カルテ作成に向けての準備	生徒会で対象者の情報収集	避難カルテ作成に向けての準備
12月	聞き取り調査 (避難カルテ)	生徒会で活動準備	聞き取り調査 (避難カルテ)
1月	避難カルテ作成 ジオパーク巡回 (現地調査)	生徒会で作成 一般生徒	避難カルテ作成 室戸岬ジオスポットの現地調査
2月	避難カルテ作成	生徒会で作成	避難カルテ作成
3月	避難カルテ作成・対象者へ配布 予定	生徒会で作成	避難カルテ作成・対象者へ配布予定

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3


タイトル	ジオパーク基調講演
実施月日（曜日）	5月24日（金）
実施場所	本校 多目的ホール
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 外部講師 氏 名：柴田伊廣 所属・役職等：室戸ジオパーク推進協議会 地質専門員 博士
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	3 講演会・シンポジウム
活動目的※5	10 その他 地元地域（室戸ジオパーク）の知識を深める
達成目標	高校生自身が住む室戸をより深く理解する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	講演形式60分程度 ワークショップ形式（参加者全員で輪になり取り組む）60分
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	プロジェクター 長机 （学校のものを使用） 
参加人数	220人（全校生徒・教員）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 普段自分たちが生活している世界的に有名なジオパークをより深く知ることができた。 【課題】 複数回できなかつたことが課題である。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	炊き出し訓練
実施月日（曜日）	5月25日
実施場所	本校 調理室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：教員 氏 名：竹田・山本 所属・役職等：本校家庭科教員
所要時間または「コマ数×単位時間」	4時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	13 体験学習
活動目的※5	4 災害を想定した訓練
達成目標	「鶏つくね団子の醤油ちゃんこ鍋」と「簡易炊飯袋を利用した炊飯の作成
実践方法・進め方（簡条書きまたはフロー）	非常時における調理等のポイントの指導を本校教員より受けてから、調理を開始。 出来上がりを自分たちで試食したり、教員で試食。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	本校生徒18名＋教員2名 道具・具材等は家庭科より協力を得た。
参加人数	作成・実施30名 試食15名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】被災時に地域の人たちを支援する側の人材を育てるという観点に立って支援学習も実施できた。被災した場合を想定した限られた具材や調理方法で取り組んだが、しっかりと栄養をとれるものができた。 【課題】選抜メンバーでの取り組みになった。学校全体に活動の場を広げていく必要がある。
成果物	

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	ジオパークサマースクール参加（夏期学習会）	
実施月日（曜日）	8月8日・9日（木曜・金曜）	
実施場所	室戸ジオパーク・国立室戸少年自然の家	
担当者または講師	担当者・講師等の区分：ジオパーク推進協議会	
所要時間または「コマ数×単位時間」	8日8:30～9日16:00（宿泊を伴う2日間）	
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事	
活動目的※5	1 遊び・楽しみながらの防災	
達成目標	様々な年齢の方と触れ合い楽しみながら防災の知識を高める	
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	野外学習 実験（津波発生メカニズム体験） 災害時を想定した夜間活動 災害用グッズ作成	
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	他団体主催のため、なし	
参加人数	本校生徒11名（うち、防災教育での取り組みでの参加5名） 全体参加者60名程度	
経費の総額・内訳概要	参加費15000円（1名3000円×5名）	
成果と課題	【成果】 様々な年齢の方々と宿泊を伴う活動をし、高校生が中心となって防災リーダーとなっていく必要性を生徒自身が理解することができた。 【課題】 学校主催ではなかったため、参加人数が少なくなりました。今後は、できるだけ多くの生徒に取り組んでもらいたい。	
成果物	なし	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 4 】※3

タイトル	南海地震フォーラムへの参加	
実施月日（曜日）	9月14日（土曜）	
実施場所	須崎市市民文化会館	
担当者または講師	主催：高知県立須崎高等学校 共催：須崎市・須崎市教育委員会	
所要時間または「コマ数×単位時間」	13:00～16:10	
プログラムのカテゴリ、形式※4	3 講演会・シンポジウム	
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める	
達成目標	他の高知県内の高等学校の生徒からそれぞれが取り組んでいる防災教育・防災活動を学ぶ	
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	基調講演：元宮城県立気仙沼向洋高校教諭 本田先生 各学校紹介：防災に関して取り組んでいることを紹介 パネルディスカッション：県内4校の代表者が壇上で意見交換	
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	他団体主催のため、なし	
参加人数	本校生徒2名 教員1名	
経費の総額・内訳概要	参加費なし	
成果と課題	【成果】それぞれの学校が様々な角度から防災にアプローチしていることがよく理解できた。基調講演から実際の現場での状況を聞き、今後にかすことができるようにと考え始めることができた。 【課題】避難カルテ作成が間に合わず、取り組みの紹介だけで終わってしまった。	
成果物	なし	

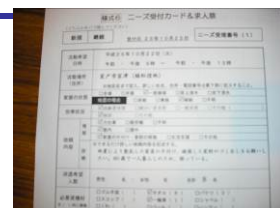
※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 5 】※3

タイトル	防災学習（避難訓練・講演・防災ボランティアセンター受付体験）
実施月日（曜日）	10月22日（火）
実施場所	本校各教室 体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：高知県ボランティア・NPOセンター ：室戸市社会福祉協議会 氏 名：仙頭正輝氏 安岡孝章氏 大西洋祐氏
所要時間または「コマ数×単位時間」	10:55～12:45
プログラムのカテゴリ、形式※4	16 避難・防災訓練
活動目的※5	5 災害を疑似体験
達成目標	防災意識を高める（支援していく側となり得ることの理解）
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	避難訓練 講演：「南海巨大地震と災害ボランティア」 高知県ボランティアNPOセンターの仙頭氏 体験学習：「ボランティアセンターの活動の流れ」 ボランティア受付 名札付箋記入 マッチング 送り出し
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	体験学習で使用する机、ペン、テープなどは学校のものを使用NPOセンターよりボランティア受け入れ用紙を用意していただく
参加人数	220人程度（全校生徒・教員）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】実際に、災害ボランティア活動を経験することができた。徐々に仕組みに理解でき、積極性が生徒よりみられるようになっていた。 【課題】避難訓練では、災害時通行できないことも想定し、進路を一つに限定したが、今後はフリーな状態で訓練をすることも必要である。
成果物	なし



※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 6 】※3

タイトル	聞き取り調査
実施月日（曜日）	12月25日（水）
実施場所	古戸集会所
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校生徒会 対 象：浮津長寿会（室戸市の老人会）
所要時間または「コマ数×単位時間」	13:00～16:00
プログラムのカテゴリ、形式※4	17 その他（避難カルテ作成のための聞き取り調査）
活動目的※5	9 災害対応能力の育成
達成目標	地域のお年寄りからお話を伺い、避難カルテ作成に向けて情報を得る
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	浮津長寿会の水曜定例会にてお年寄りと一緒に体操をしたり世間話をして打ち解ける時間をつくる。 その後、過去の自然災害での恐怖体験などを伺う。 避難カルテ作成に向けて話を進めていき、交流を深める。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	本校生徒会自身が、教員のカも借りずに協力し合い、老人会にアポイントメントをとった
参加人数	生徒会7名・教員1名 地域のお年寄り15名
経費の総額・内訳概要	17,060円（聞き取り用ボイスレコーダー8530円×2）
成果と課題	【成果】避難カルテ作成に向けて、非常に内容の濃いお話を伺うことができた。 【課題】現段階では老人会としてお話を伺うことは一度だけとなっているので今後回数を増やしていきたい。（個人宅への聞き取り調査は進んでいる。）
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>ジオパーク学と生徒会が担当するため一方は授業、もう一方は授業外活動と並行して活動できないことが、プラン立案の難しかった点である。</p> <p>年度当初は本校の最終目的である「避難カルテ」作成に向けてどのように取り組んでいくのか非常に難しく、地元の理解もあまり進んでいないような生徒が多いというのもあり、そこまでたどり着く想像ができなかった。</p> <p>しかし、地元理解、ジオパーク理解、避難訓練、災害ボランティア体験など、様々な取組がプランを企画した4月当初に加えて立案した点は工夫を凝らした。特に、地元高校生が室戸のことをよく知らないということを感じたため、まずはカルテ作成への近道として地元を理解するという、災害を理解するというを中心にプランを立案し、活動できた。</p> <p>外部との折衝があるため、日程調整の面では苦勞したが、高校生のためなら時間を割いてくださる団体もおり、非常に助かった。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>一番苦勞したのは、避難カルテ作成のための聞き取り調査である。</p> <p>避難カルテは地域のお年寄りを対象としている。教員が生徒会に対し、市役所や関係機関に問い合わせアポイントメントをとることは簡単だろうが、今回はあくまでも最大の目的は「人材育成」であると考えたため、主体性を持ってもらいたいために、突き放した。自分達で対象となり得そうなお年寄りを見つけるためにはどうしたらよいか。地域の人に声をかけるためにはどのような方法がいいのか。準備には非常に時間がかかった。</p> <p>しかし、最終的には地域の老人会に出向くことができ、しっかりとお話を聞くことができた。</p> <p>準備段階では苦勞した点と工夫した点が同じである。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>サマースクールについて、室戸市ジオパーク推進協議会の主催のため、活動に入ってしまうと、後は学校としても手が出せない。それが、かえってよい方向に向かい、下は幼児から上はお年寄りまで高校生自身が触れ合う時間ができた。当初は、学校側としてもある程度踏み込んで協力という形を取った方が良いのではないかと考えたが、「人材育成」のためには生徒を預けるということの大切さも理解することができた。</p> <p>防災ボランティアセンター体験では、準備段階より教員・生徒会も入って代表者が事前準備をしっかりと行っていたため、戸惑いなくスムーズに実践ができた。準備段階から想定できる状況を頭に入れておくという工夫が必要であった。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	高知県立須崎高等学校 須崎市教育委員会	南海地震フォーラム
保護者・ PTAの組織		
地域組織	浮津長寿会	避難カルテ作成のための の聞き取り調査
国・地方公共団体・ 公共施設	室戸市 室戸ジオパーク推進協議会 須崎市	サマースクール 南海地震フォーラム
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	高知県ボランティア・NPOセンター 室戸市社会福祉協議会	防災学習（講演・防災ボ ランティアセンター体 験）
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>高校生が地域の防災リーダーとなり得る素質を十分に持っていることが分かった。人口が減少し、お年寄りの占める割合が非常に多い室戸地域で唯一の高等学校として担う役割は非常に多い。防災ボランティアセンター体験では、実際に東北の地震や津波を経験した方の講演を聞くことができ、いずれ来る南海地震への対応をよりリアルに感じることはできないだろうか。</p> <p>プランを行っていくうちに生徒の様子が変わっていくことがよくわかった。地元を理解しようとする姿勢。そして、理解すると次に人を助けたいという気持ちの発生が出てくる。それぞれが連動して、防災に向けての取り組みがプランを重ねるごとにスムーズになっていったのではないだろうか。</p> <p>本プランの最大の目的である「避難カルテ」作成には地域のお年寄りの気持ちがたくさん詰まっている。高校生と話をすることで喜び、楽しみに思っているお年寄りの存在もありがたかった。その期待に、避難カルテ作成という形で高校生が応え、少しでも助けたいという気持ちが出てきてもらえたことが成果といえるだろう。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>防災教育チャレンジプランに取り組むことで県内での注目度も非常に高い。避難カルテ聞き取り調査では、お年寄りの集まる集会所にテレビや新聞の取材があった。それほど室戸高校生に対する期待度は高い。そして、その本校生徒の自主性を計り、対象となるお年寄りを探すことを生徒に任せた。非常に時間はかかったが、自分たちで老人会までたどり着き、そこでお話を聞き、親しくなり、お宅に伺いカルテ作成ができた。カルテを作成するに当たり、高校生がリーダーとして認められるという自己肯定感を高めることができたことが、この活動を通して一番大きかったように思う。</p> <p>反省として、ジオパーク学が中心となり活動する予定であったが、授業としての括りがあるため、なかなか校外に出て学習を深めることができなかった。その部分を生徒会がカバーしたため、実質的に生徒会活動で取り組んだ部分も多くなってしまった。</p> <p>また、避難カルテ対象を見つけることに時間がかかり、作成したカルテはモデルケースとして3家庭ほどとなったことが反省点である。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>今後は、1年生を対象に学年で室戸ジオパークの現地体験を行い、より深く室戸の地形を知り、防災に取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>また、避難カルテは継続して取り組む。直近では、聞き取り調査を行った浮津長寿会の集会に再度出向き、交流を深めることや、そこにいる方々15名全員分のカルテをまずは作成していきたいと考えている。</p> <p>来年度も継続して避難カルテを作成していきたい。</p>

7. 自由記述欄 ※6

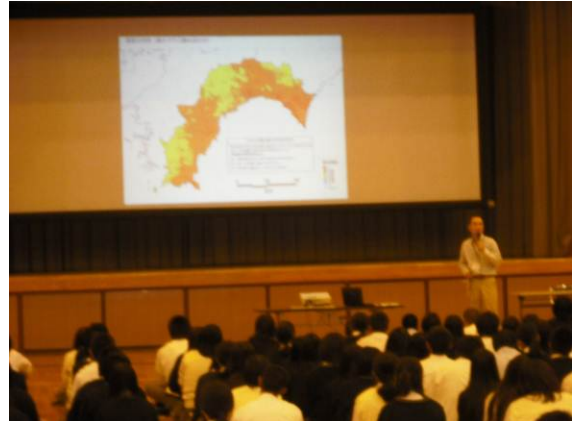
※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

10月22日 防災学習の様子

避難訓練



講演：「南海巨大地震と災害ボランティア」



防災ボランティアセンター体験



様式6 ニーズ受付カード求人票

職種	職種	受付日、より期、より月、より日	ニーズ管理番号 (1)
活動希望 日時	平成25年10月22日 (水)		
	午前、午後、夜間、その他		
活動場所 【住所】	区内指定地域 (緑地公園)		
家族の状況	<input type="checkbox"/> 単身 <input type="checkbox"/> 一人暮らし <input type="checkbox"/> 既婚 <input type="checkbox"/> 未婚 <input type="checkbox"/> 子育て中 <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> その他		
希望状況	<input type="checkbox"/> 1日 <input type="checkbox"/> 2日 <input type="checkbox"/> 3日以上 <input type="checkbox"/> 1週間 <input type="checkbox"/> 1ヶ月 <input type="checkbox"/> 3ヶ月以上		
資格	<input type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> その他		
説明 内容	希望する活動日・曜日の指定、希望する家族の状況をお知らせください。 希望する活動日・曜日の指定、希望する家族の状況をお知らせください。		
派遣希望 人数	<input type="checkbox"/> 1名 <input type="checkbox"/> 2名 <input type="checkbox"/> 3名 <input type="checkbox"/> 4名 <input type="checkbox"/> 5名		
必要資機材	<input type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> その他		
その他 記入	<input type="checkbox"/> その他 (任意) <input type="checkbox"/> その他 (任意)		
特記事項	80歳以上の方のため、生活の状況も伺います。		

(自由記述: 1/3)

12月25日 避難カルフテ聞き取り調査

まずはお年寄りと100歳体操を一緒に！



やはり最初は距離もあったんですが…



つぎに、自己紹介など…世間話も



徐々に近くなって行って



いつの間にか笑顔で話ができていました。高校生の力はすごいです。



(自由記述: 2/3)

